歯科衛生士リカレント教育
訪問歯科講座（高松）

令和7年12月21日（日）
10：00～13：00

（Holistic　Oral Care Laboratory）

本田里恵

摂食・嚥下リハビリテーションの基礎

１，口を開けてくれない患者さんの対応のヒント

２，摂食・嚥下の成長と発達、メカニズム（復習）

３，口腔機能低下症

４，摂食・嚥下評価（スクリーニングテスト、運動検査）

５，摂食・嚥下の運動検査に対応した訓練例

アナトミートレイン

全身の筋膜線維が、線路のように繋がり
全体で姿勢や動きを支えているという解剖概念







ディープフロントライン



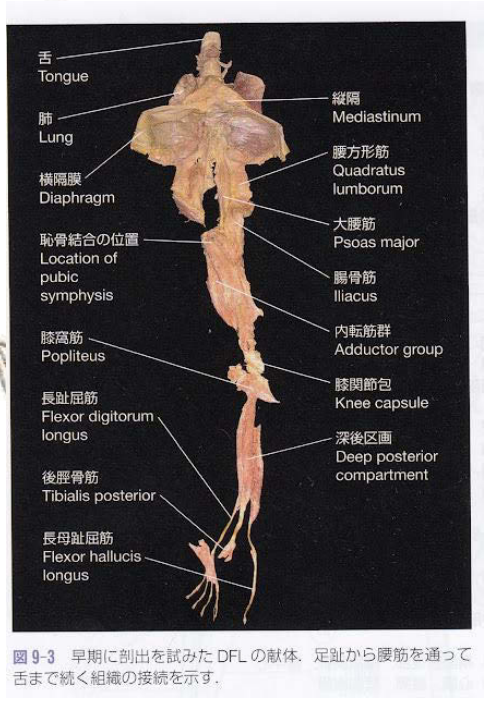


図 9-3　早期に剖出を試みた DFL の献体．足趾から腰筋を通って舌まで続く組織の接続を示す．

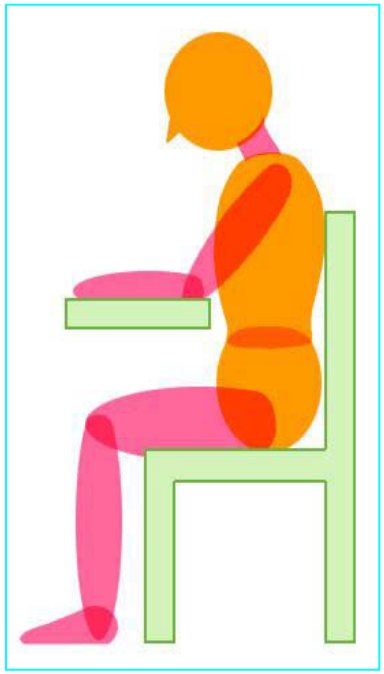
筋膜（ファシア）

筋肉を包んでいる膜
筋繊維や器官、神経などとも
連結し三次元的に
全身を覆っている
第二の骨格とも言われる

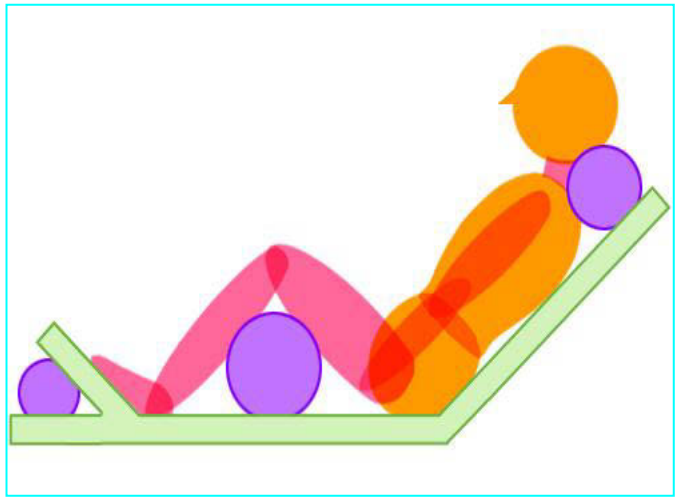
姿勢が整うと、全身の筋肉のバランスも良くなる。
肩こりや腰痛、膝の違和感も軽減される。
呼吸も深くなり、心身ともにリラックスできる。
口も開きやすくなる。

『アナトミートレイン　徒手運動療法のための筋膜経線』第3版　医学書院

基本姿勢



基本は**座位**



背中を起こして**半座位**

背中を起こせない場合

- **クッションで少し首を起こす**
- **首を横に傾ける**

出典　市立池田病院資料集より

基本姿勢 の チェックポイント！

身体が傾いていない？

食事全体が見渡せる？
食べ物に手が届く？

体型に合った
椅子（車いす）
に座っている？

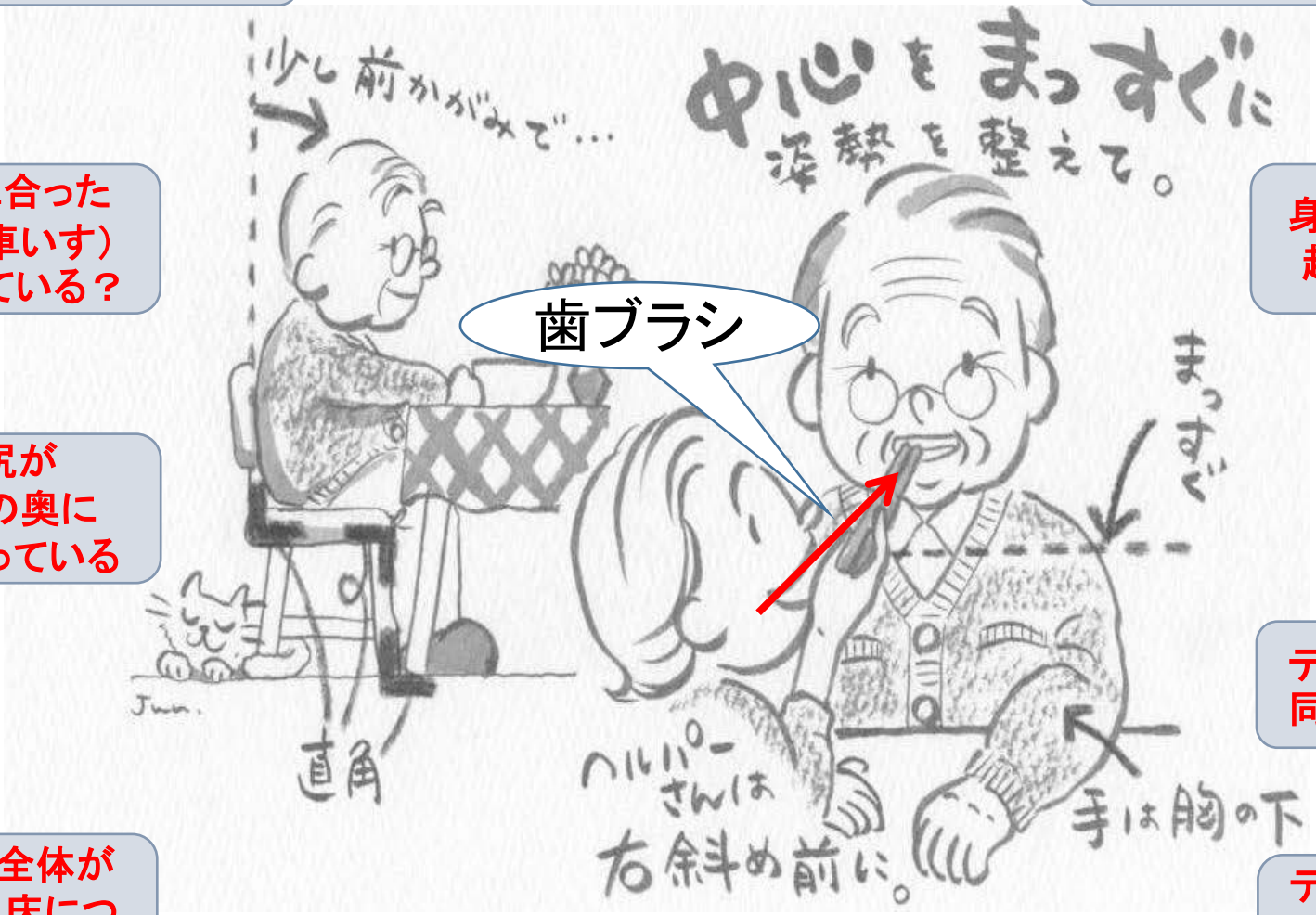
身体はしっかり
起きている？

お尻が
椅子の奥に
おさまっている

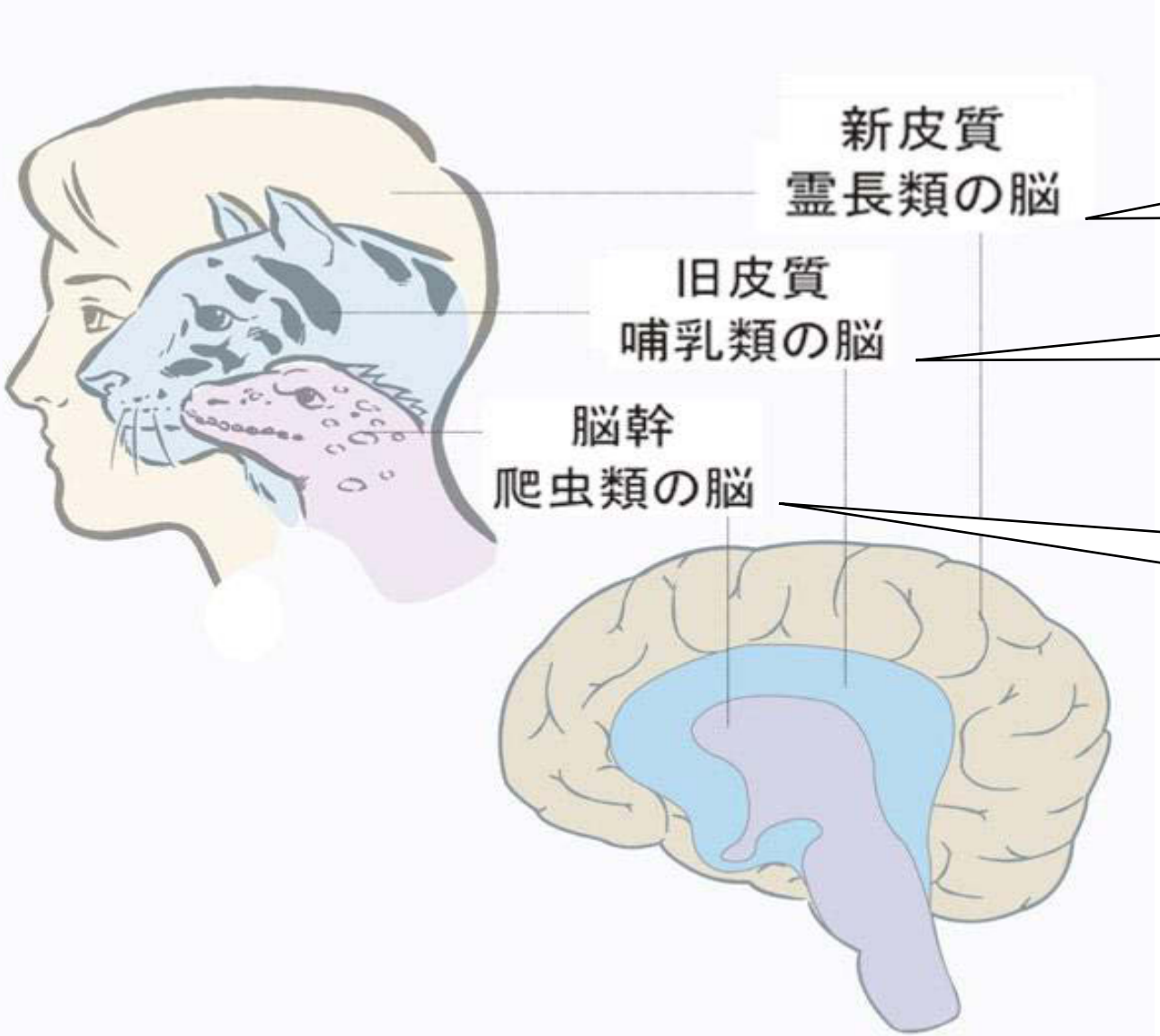
テーブルが肘と
同じ位の高さ？

足の裏全体が
しっかり床につ
いている？

テーブルと身体
の距離がこぶし
１個分以上？



感情は記憶に残る



大脳皮質
理性

大脳辺縁系
感情

脳幹
生命維持

開口しない対象者へのアプローチ

①緊張がある･･･ポジショニング　リラクゼーション
②関節や筋肉が硬い･･･マッサージ　ストレッチ
③感覚過敏･･･脱感作　系統的脱感詐
④う蝕、歯周疾患の痛み･･･治療
⑤傷や口内炎･･･治るまで洗口や軟毛歯ブラシで対応
⑥意欲喪失･･･要求せず、気持ちよさや爽快感の提供
⑦心理的拒否
　過去のマイナス経験･･･新しくプラス経験
　認知症･･･気持ちよさや爽快感の提供･感情は残る
　介助者との信頼関係･･･信頼関係を作る
　高齢期の精神障害　　人を変える、歯科医師ならOKかも
⑧時間　うつ･･午後　認知症･･午前対応が有効なことも･･･

鳴かぬなら・・・　開けぬなら・・・











信長

秀吉

家康

3つを使いこなす

心⇒　身体⇒　口腔　の　順位開く

- 信頼・共感関係を築く（ラポール形成）
  名前を呼ぶ　挨拶　傾聴　受け入れる
  話し方、呼吸、姿勢

- 身体リラクゼーション

- 口腔マニュピュレーション



開口しない対象者へのアプローチ

- **目**を合わせる
- 相手に同調した、**声か**をけしながら行う
- 無理はせず時々の興味に合わせる
- 安心感を与え、**触れられる**ことに慣れていただく
- **姿勢**を整える
- なじみの関係を築く
- 焦らない
- **理解者に相談（多職種連携）**
- **よい道具・・・歯ブラシ**

歯磨きの難しい対象者への対応一例

コミュニケーション担当重要

- 正面から　目を合わし「〇〇さんおはようございます」
- 「歯磨きの本田です。今日はいい天気ですね」　　触れましょう
- 「〇〇さん脈をとりますね」　冷たい手はダメ
- 「お元気ですよ」その後、手のマッサージ
- 「〇〇さん　熱はどうかな？おでこ触りますね」額に手を当て
- 頭頂部を撫でつつ「良かったわ」 ⇒　両頬触る
  「〇〇さん朝ごはん食べましたか？」両手を触りつつ
- 「よく働いた手ですねetc」会話しながら　　手のマッサージし続ける

歯磨き担当

- 肩（僧帽筋真ん中）から背中を緩やかに撫でるようなマッサージ
- 歯ブラシを水で濡らし（歯ブラシは横から）
- 歯ブラシを口唇から滑り込ませ上顎の歯面に沿わせ
- ストンと当たるところまで入れる
- スクラビング法かフォーンズ法で正中まで磨き
- 可能であれば下顎骨頤隆起を下方へ押し下げる
- 下顎咬合面　下顎舌側面　上顎咬合面　上顎口蓋側面を磨く

開口保持が難しい患者さん

オーラルバイト
5本　約2,000円



万能開口器
約4,000円？



ホタルセット
約2,000円





指ガード
約1,000円





経口摂取で生活参加を支援

大衆超高齢化時代の要請

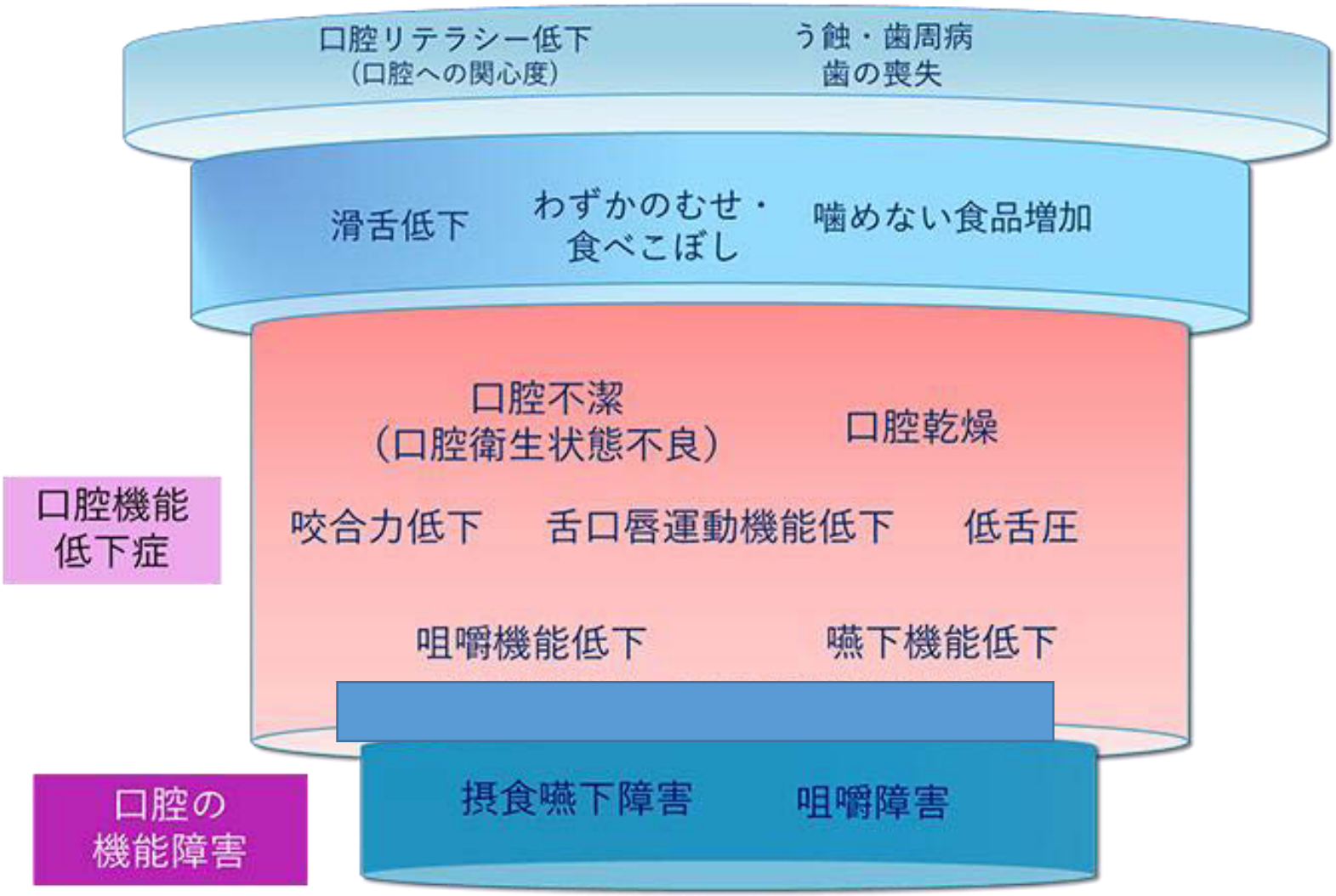
「いかに死なないようにするか」 ⇒

「いかに死ぬまで生活を支えるか」

1995年	老健施設	約1,000	（認知症51%）
2023年	老健施設	4,250	（認知症85%）
2023年	特別養護老人ホーム	10,606	（認知症95%）

全国歯科医院　68,000　　訪問診療　13,000

口腔機能低下症



「口腔機能低下症」概念図

別添2　口腔機能精密検査記録用紙

口腔機能精密検査　記録用紙

患者氏名		生年月日	年　月　日（　歳）	（男・女）

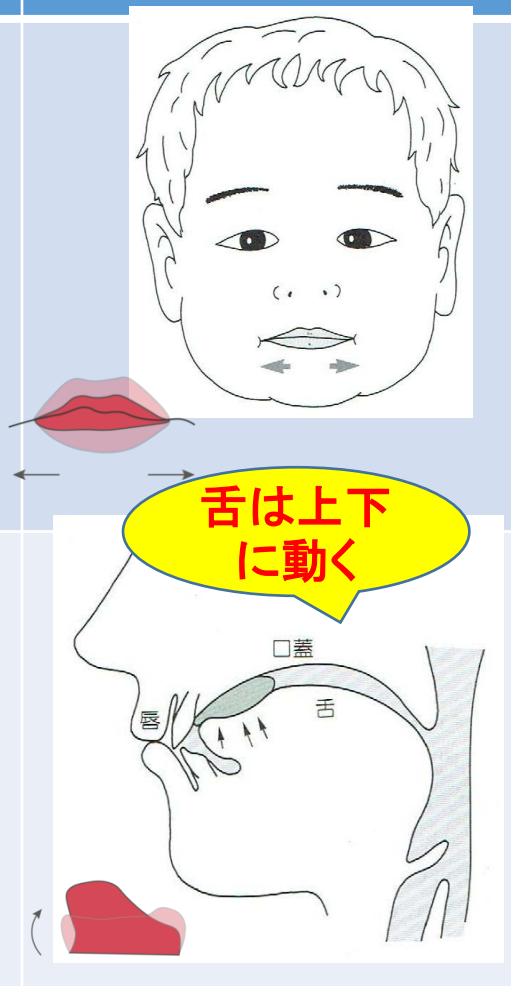
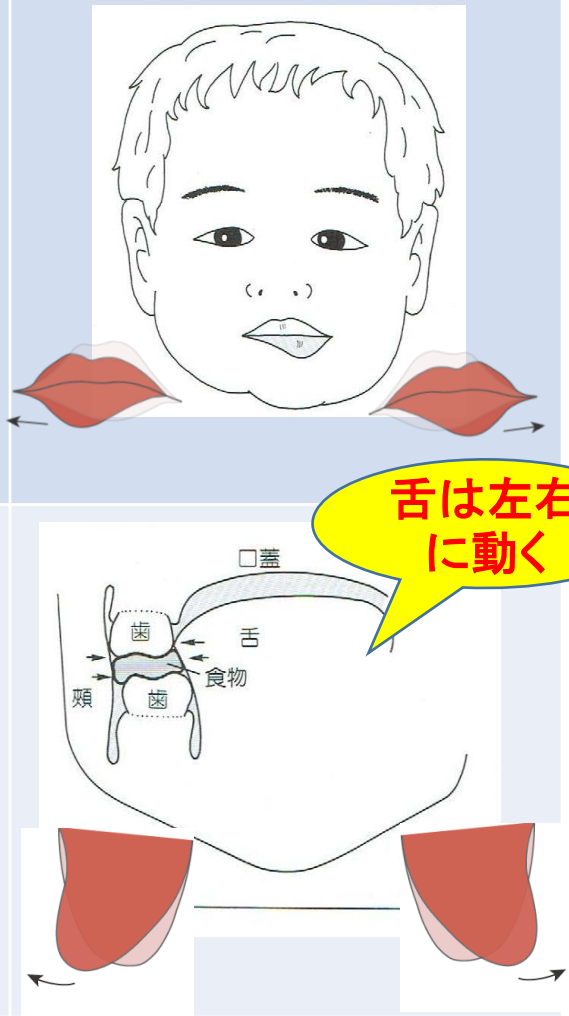
計測日　年　月　日

下位症状	検査項目	該当基準	検査値	該当
①口腔衛生状態不良	舌背上の微生物数	3.162×10^6CFU/mL 以上	CFU/mL	□
	舌苔の付着程度	50%以上	%	
②口腔乾燥	口腔粘膜湿潤度	27 未満		□
	唾液量	2g/2 分以下		
③咬合力低下	咬合力検査	350N 未満（デンタルプレスケールⅡ・フィルタあり） 500N 未満（デンタルプレスケールⅡ・フィルタなし） 200N 未満（デンタルプレスケール） 375N 未満（Oramo-bf）	N	□
	残存歯数	20 本未満	本	
④舌口唇運動機能低下	オーラルディアドコキネシス	どれか 1 つでも，6 回/秒未満	「パ」　回/秒 「タ」　回/秒 「カ」　回/秒	□
⑤ 低舌圧	舌圧検査	30kPa 未満	kPa	□
⑥ 咀嚼機能低下	咀嚼能力検査	100mg/dL 未満	mg/dL	□
	咀嚼能率スコア法	スコア 0，1，2		
⑦ 嚥下機能低下	嚥下スクリーニング検査（EAT－10）	3 点以上	点	□
	自記式質問票（聖隷式嚥下質問紙）	A が 1 項目以上		

該当項目が 3 項目以上で「口腔機能低下症」と診断する。　**該当項目数：＿＿**

口腔機能低下症診断のための口腔機能精密検査

離乳食の進め方

初期　5～6か月	中期　7～8か月	後期　9～11か月
		

哺乳に関する
探索反射

手づかみ食べ

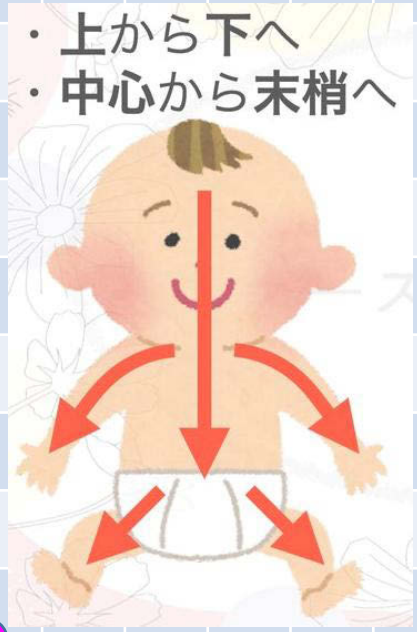
自食



準備期	準備期	初期	中期	後期	完了期	16.	17.	18.	19.

- 指しゃぶり開始
- おもちゃしゃぶり開始
- 模倣
- うつ伏
- 足舐め
- 寝返り
- ずり這い
- 四つ這い
- 高這い

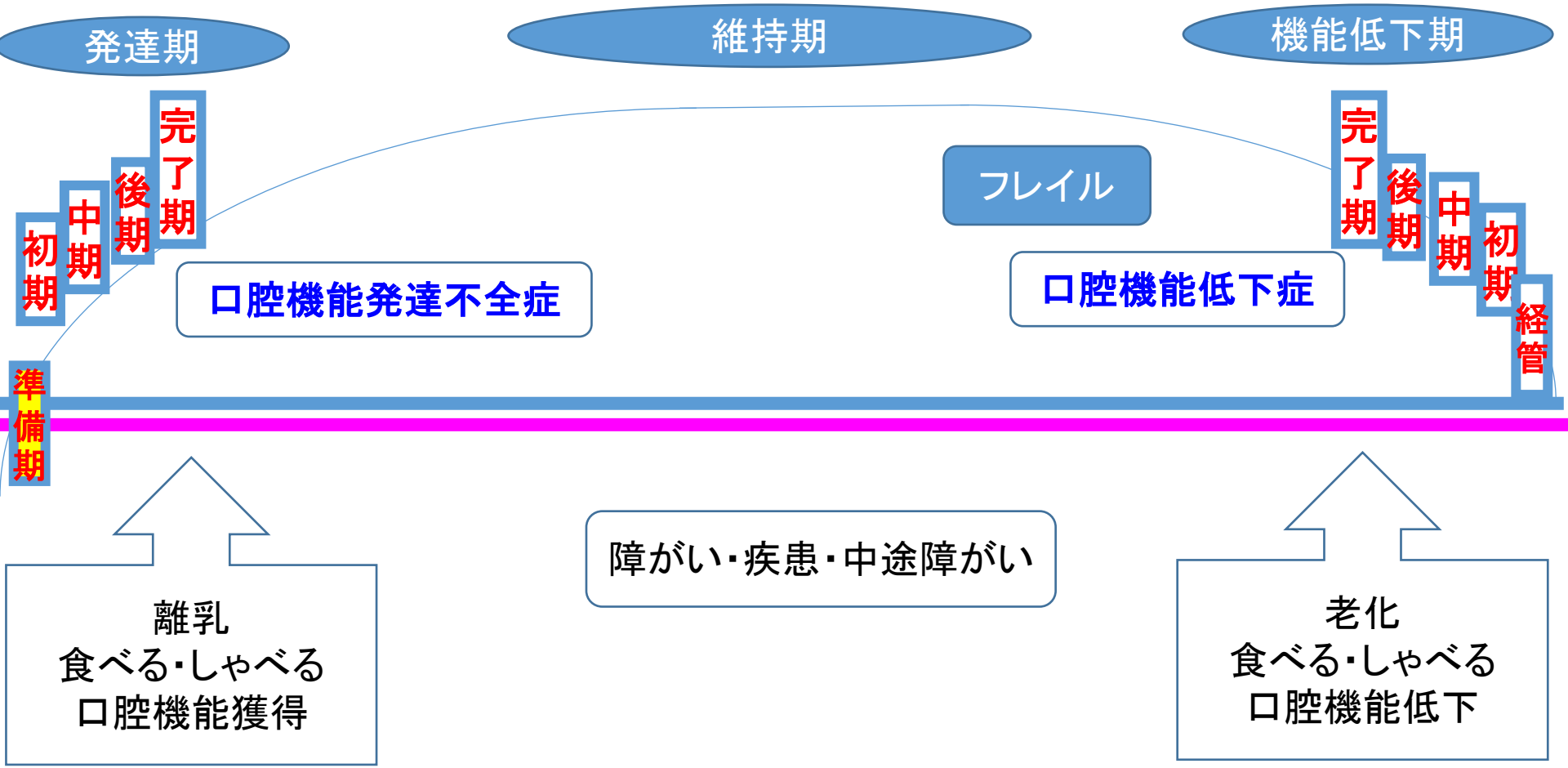






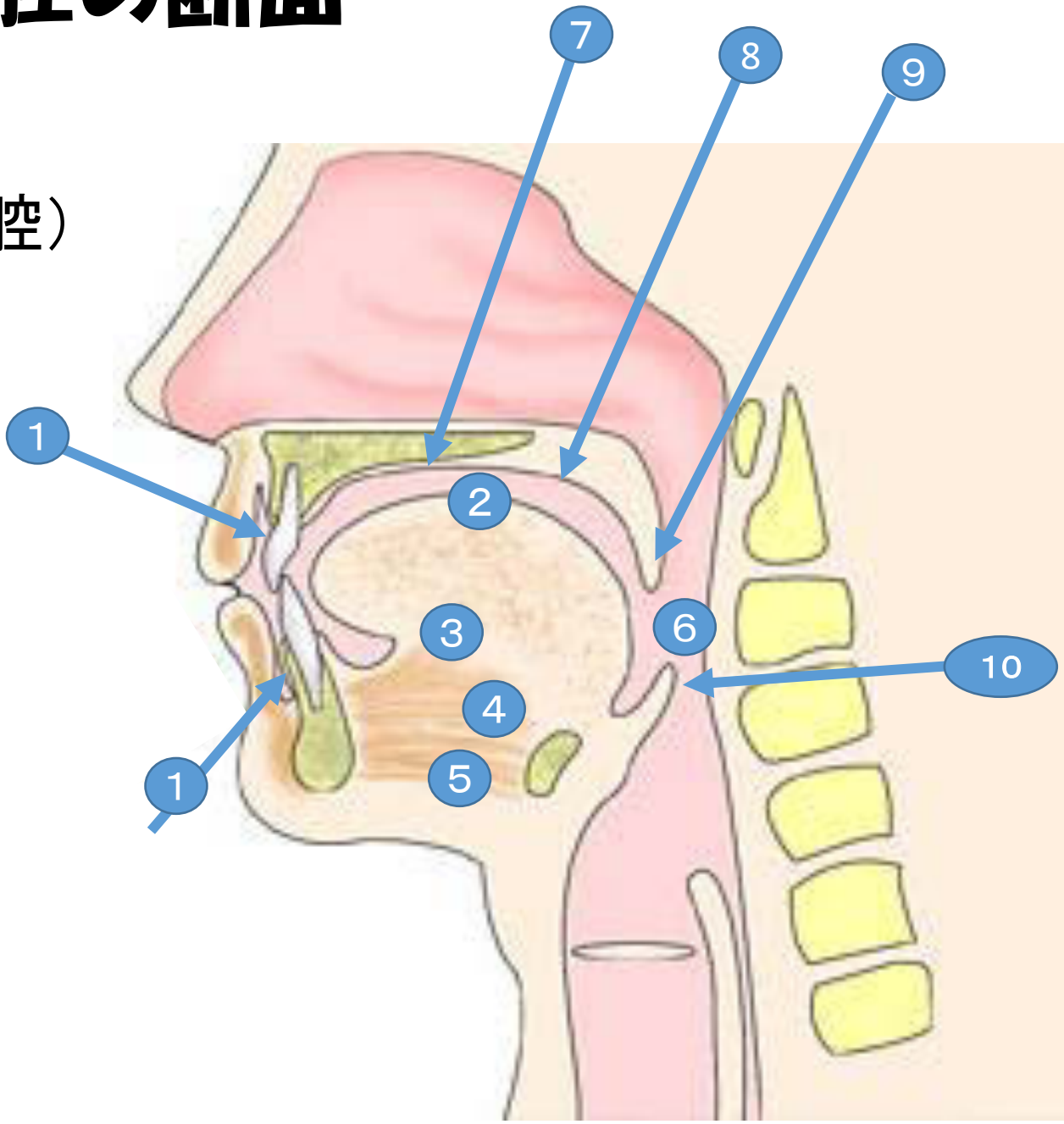
歯の生え始め　前歯上下4本　乳臼歯・犬歯

口腔機能の発達

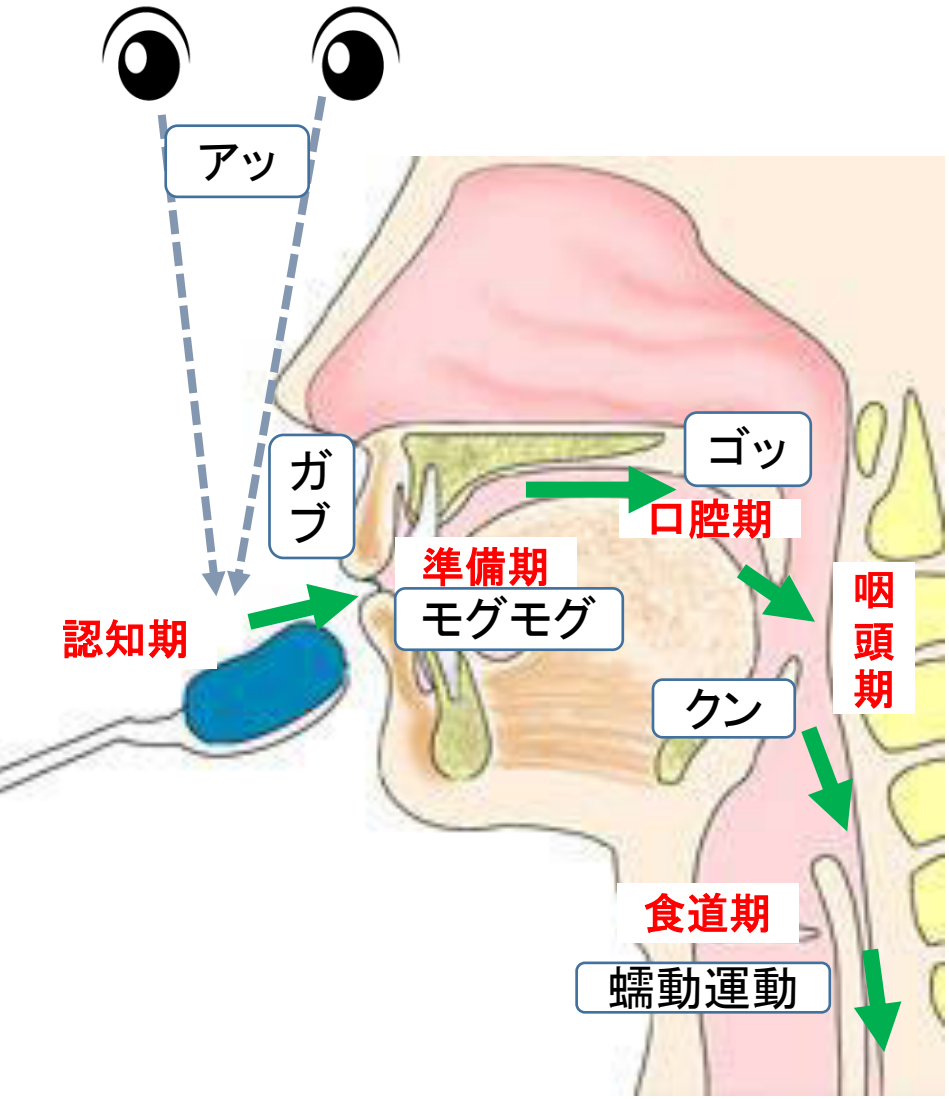

発達期
維持期
機能低下期
準備期
初期
中期
後期
完了期
口腔機能発達不全症
フレイル
口腔機能低下症
初期
中期
後期
完了期
経管
離乳
食べる･しゃべる
口腔機能獲得
障がい･疾患･中途障がい
老化
食べる･しゃべる
口腔機能低下

口腔の断面

1、口腔前庭
2、口腔（固有口腔）
3、
4、 ｝舌の筋肉
5、
6、口峡
7、硬口蓋
8、軟口蓋
9、口蓋垂
10、喉頭蓋



摂食・嚥下【５期モデル】



①認知期（先行期）

②準備期（捕食・咀嚼）

③口腔期

「飲み込む」を待てる

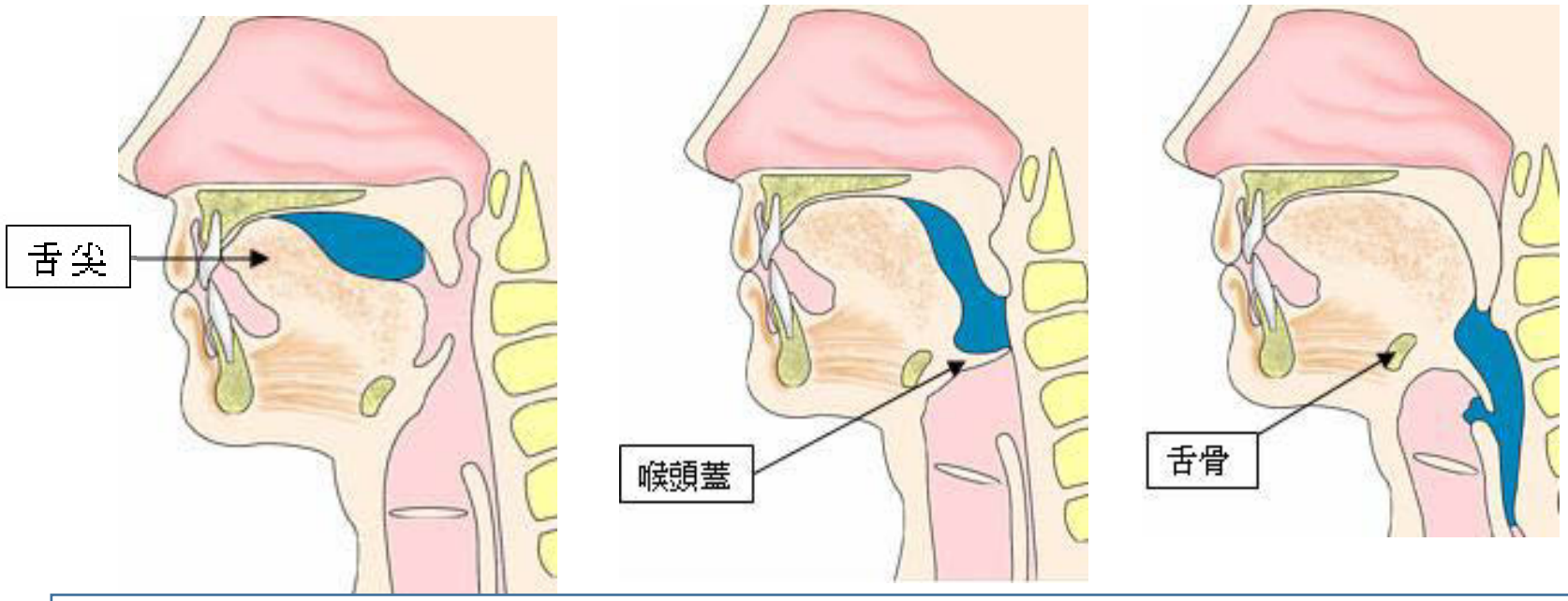
④咽頭期

⑤食道期

反射 ０．５秒

流れ・過程としてある

咽頭期（不随意的）の嚥下反射



①軟口蓋が後方へ移動し、鼻咽腔を閉鎖する
②舌骨が前上方へ移動し、同時に甲状軟骨と輪状軟骨も前上方へ移動
③輪状咽頭筋が弛緩し食道入口部が開く
④舌根部が後方へ移動し咽頭後壁に押し付けられ食塊が食道へ押し出される
⑤喉頭蓋が倒れ喉頭を閉鎖し、食塊が通過する

０．５～１秒以内に起こる。タイミングがずれると誤嚥の危険性がある！　⇒　窒息も！！

摂食・嚥下器官運動検査

①呼吸機能（喀出能）
②頸部の可動性
③顎運動
④口唇・頬運動
⑤舌運動
⑥喉頭挙上
⑦発声・共鳴
⑧構音

必要な訓練の選択
訓練順序の決定

訓練効果の判定
訓練終了の決定

摂食・嚥下機能療法

①呼吸機能（喀出能）訓練
②頸部のストレッチ運動
③顎運動訓練
④口唇・頬運動訓練
⑤舌運動訓練
⑥喉頭挙上訓練
⑦発声・発音訓練
⑧構音訓練

摂食・嚥下障害の有無

摂食・嚥下障害の診断

①医療面接
②診察
③胸部X線　血液検査など
④嚥下造影検査など
⑤水飲みテスト、頸部聴診

簡易スクリニング

①反復唾液嚥下テスト（（RSST）
②血中酸素飽和度モニター
③頸部聴診法

『摂食機能療法マニュアル』
医歯薬出版　2002 【参考文献】

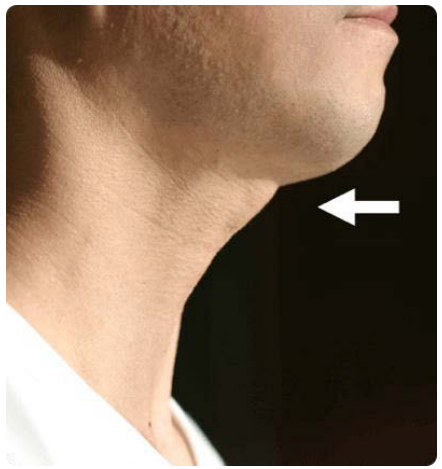
簡易スクリニング

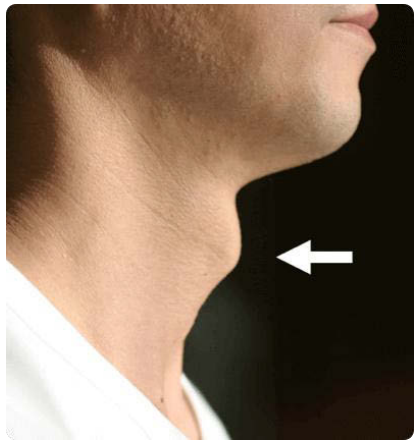
①反復唾液嚥下テスト（RSST ）

嚥下反射の随意的な惹起力を評価する









30秒間（タイマー）計りますので
できるだけたくさん
唾をゴックンと飲んでください

嚥下回数は、喉頭隆起が完全に
指腹を越えた時１回とカウントする

30秒で3回以上　OK

簡易スクリニング

②血中酸素飽和度モニター

SpO2（血液中酸素飽和濃度）
動脈血に含まれる酸素の割合と
PR（脈拍）をチェック

パルスオキシメーター



食事中、口腔ケア中、口腔ケア前後
血液中酸素飽和濃度をモニター
安静時より5%以上低下した場合は
誤嚥の可能性がある。

96～100%　OK
95%以下　深呼吸など
90%呼吸不全の可能性

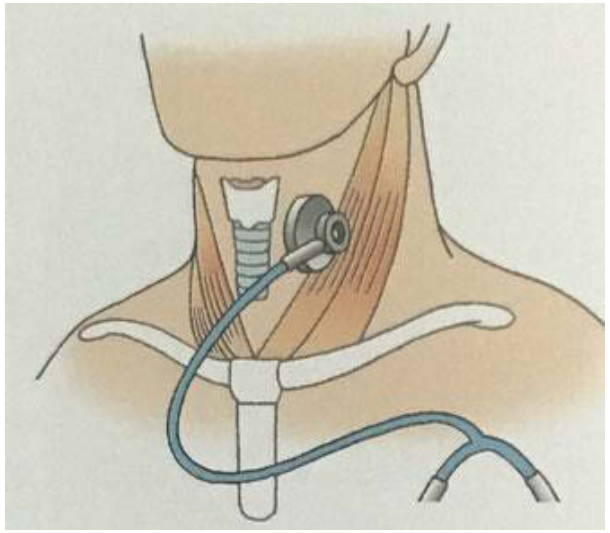
簡易スクリーニング

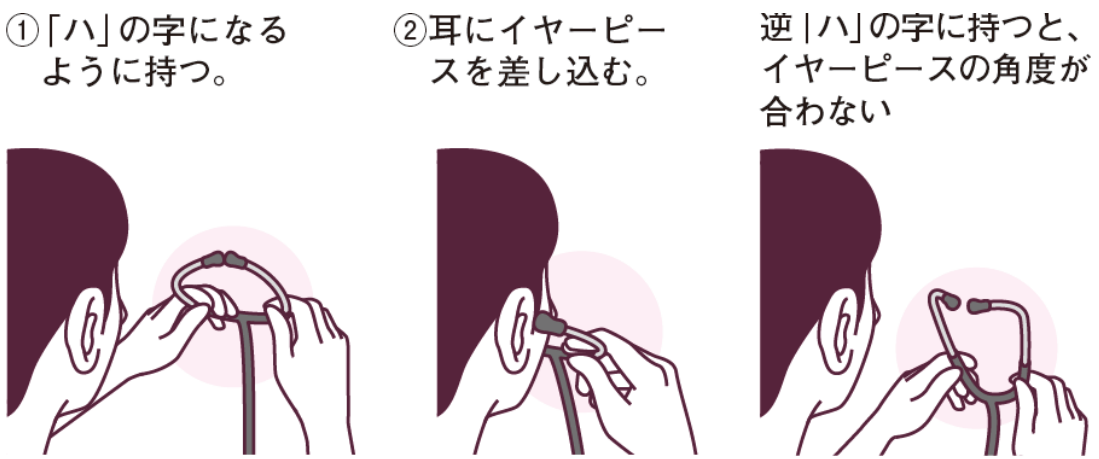
③頸部聴診法

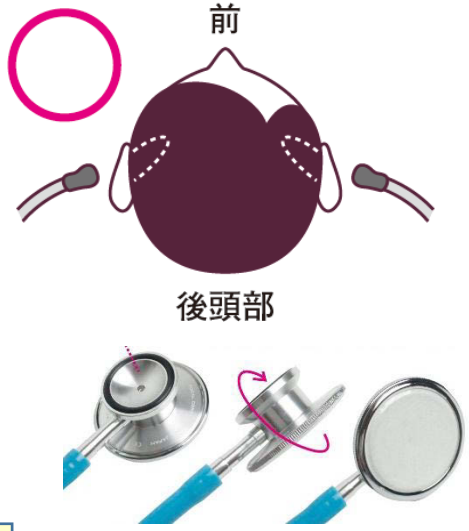
喉頭（輪状軟骨）の側面付近に当てて聴診

誤嚥や下咽頭の貯留を判定する

試してみよう
①呼吸音
②水
③とろみ剤
④固形物







頸部聴診法判定基準

【嚥下音】・長い嚥下音や弱い嚥下音、繰り返しの嚥下音⇒ 舌による送り込み障害 喉頭挙上障害など

・泡立ち音・むせに伴う喀出音 ⇒ 誤嚥

【呼吸音】・湿性音、嗽音、喘鳴あるいは液体振動音 ⇒ 誤嚥、喉頭侵入

ベル面付きが呼吸音が聞こえやすい
180度回転するので回して切り替える

①呼吸機能（喀出機能）検査

【観察】喉に溜まった唾液や食物などを咳で吐き出せるか



強い咳をする

「たくさん息を吸って、
止めて、
私が合図したら
『ゴホン』と
強い咳を
してください」

○ ＜検査終了・訓練の必要なし＞

△ （弱い）

× （不可）

ハッフィング
息を強く吐き出す

「お腹にたくさん息を
吸い込んでください。
そして、お腹から勢いよく
息を吐きだしてください」

○ **喀出能力強化訓練**
咳嗽訓練など

× **腹式呼吸**

「鼻から息を吸って、
お腹を膨らませ、
その息を口からはいてください」

○ **ハッフィング訓練**
プッシング訓練
プリング訓練

× **リラクゼーション**
可動域訓練
腹式呼吸など

①呼吸機能（喀出機能）訓練



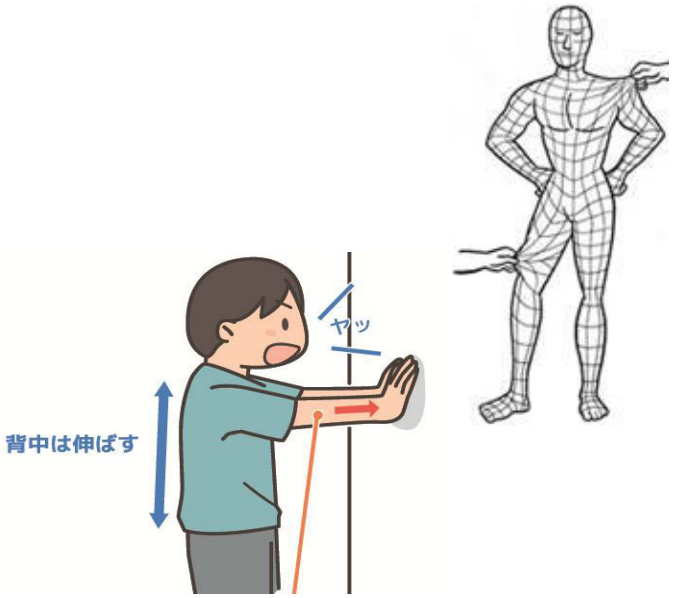
①椅子にすわり、お腹に手を当てる。
②お腹を膨らませながら、
　たくさんの息を吸い込む。
③「ハッ！」と勢いよく、
　一気にお腹をへこませながら
　息を吐き出す。

ハッフィング訓練



①椅子に座り、椅子の肘や
　座面を両手で下から強く握り
　息をためる。
②手を力強く引き上げると同時に
　喉に力を入れて
「エッ！」と声を出す。

プッシング訓練



①足を前後に軽く開き、壁などに
　手のひらをあてて、
　息をためてから体重をかける。
②手を前に強く押すと同時に、
　喉に力を入れて
「エッ！」と声を出す。

プッシング訓練

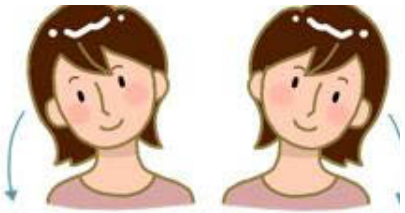
②頸部の可動性検査

【観察】首を自由に動かせるか
喉頭周囲にこわばりがないか
姿勢調節ができるか

「首をできるだけ前に倒して下さい」
次に、首をできるだけ後ろに倒して下さい」

首を前後に倒す

- ○ 前屈30° 後屈50° 以上
- × **首のストレッチ運動（前後）**



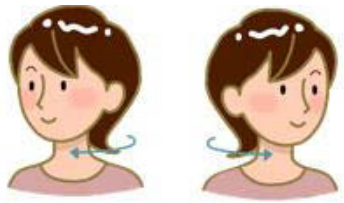
右に倒して下さい
左に倒して下さい

首を左右に倒す

- ○ 左右 50° 以上
- × **首のストレッチ運動（左右）**

首を左右にねじる

- ○ 左右 60° 以上
- × **首のねじりストレッチ運動**



「首をねじって、顔をできるだけ右に向けて下さい
次に。首をねじって、顔をできるだけ左に向けて下さい」

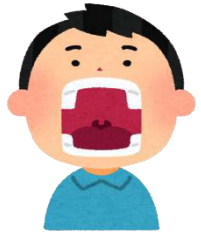


マッサージは首の後ろの筋を重点的に行いましょう

図2　頸部のマッサージとROM訓練

③顎運動の検査

【観察】口を大きく開けて、食物を取り
込むことができるか
噛むことができるか
顎を開けたり閉じたりできるか



口を大きく開ける

「できるだけ大きく口を開けて、
そのままじっとして下さい」

○ 3cm以上 5秒以上

△ 3cm以上 5秒未満

× 3cm未満

＜検査終了・訓練の必要なし＞

【咬合位】奥歯でかみしめる

「奥歯でカチンとかんで
そのままじっとしていて下い」

○ 5秒以上

**顔面マッサージ
咀嚼筋強化（顎を左右に動かす）
開口訓練「アー」を5秒　など**

× **開閉口運動リズミカルに3回以上**

「私の合図に従って
口を開けたり、閉じたりしてください」

○ **咀嚼筋の筋力訓練
（奥歯のかみしめ）
開口訓練
（アーエーオー）**

× **顔面マッサージ
開閉口訓練**

④口唇・頬運動検査

【観察】頬を吸い込むことができるか
頬を膨らませることができるか
口唇を自由に動かせるか
飲み込むとき、唇を閉じられるか

「口をすぼめて、頬にくぼみができるくらい強く吸って、その状態を持続して下さい」

頬をすぼめる

○ 両側5秒以上 ＜検査終了・訓練の必要なし＞

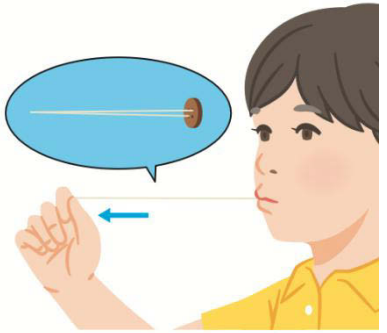
△ 5秒未満

×

△、× → **吸引運動訓練 （頬の吸い込み）**







「唇を閉じて口の中に空気を貯めてできるだけ頬を膨らませて下さい」

頬を膨らます

＜検査終了・訓の必要なし＞

○ 左右5秒以上

△ 5秒未満

×

△、× → **口角引き**

「唇をできるだけ横に引いて『イー』と言って、その状態を維持して下さい」

口角引き

○ 5秒以上 → **頬を膨らまし訓練**

△ 5秒未満

×

△、× → **口唇閉鎖**

「唇を閉じて、その状態を維持して下さい」

口唇閉鎖

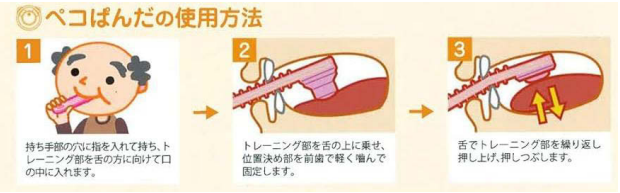
○ 5秒以上 → **口角引き訓練**
アイウエオ発声訓練
口唇突出訓練

△ 5秒未満

×

△、× → **口唇、頬の内・外マッサージ**
口唇閉鎖訓練
ボタンプル訓練

【観察】舌を自由に動かせるか
食物を咽頭へ送ることができるか
食物を保持することができるか
飲み込むとき、舌後方部を挙上できるか



⑤舌運動検査

舌前方挺出

「口を開けた状態で、舌をできるだけ前に出して下さい」

- ○ 下赤唇超える 5秒以上 ＜検査終了・訓練の必要なし＞
- △ 5秒未満
- ×

舌のマッサージ
舌前方挺出訓練

舌尖挙上

「口を開けた状態で、舌の先で上アゴの前歯の裏側を触って下さい」

- ○ 5秒以上 ＜検査終了・訓練の必要なし＞
- △ 5秒未満
- ×

舌のマッサージ
舌尖挙上訓練（舌打ち）・舌挙上訓練

舌尖口角接触

「口を開けた状態で、舌の先を右（左）の口角につけて下さい」

- ○ 5秒以上 ＜検査終了・訓練の必要なし＞
- △ 5秒未満
- ×

舌のマッサージ
舌尖口角接触訓練・舌尖口唇なめ訓練

舌後方挙上

「口を開けたまま『アーンー』と言いながら『ンー』の時に舌の奥を持ち上げて下さい」

- ○ 5秒以上 ＜検査終了・訓練の必要なし＞
- △ 5秒未満
- ×

舌のマッサージ
舌の後方移動訓練
舌の後方部の負荷挙上・訓練

⑥喉頭挙上検査

【観察】意識的に喉頭を挙上できるか
咽頭挙上を維持できるか

「私の合図に従って口の中の唾液を『ゴックン』と飲んで下さい」

喉頭挙上
空嚥下

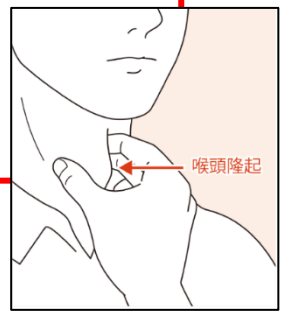
○ 1横指以上　5秒以上 ＜検査終了・訓練の必要なし＞

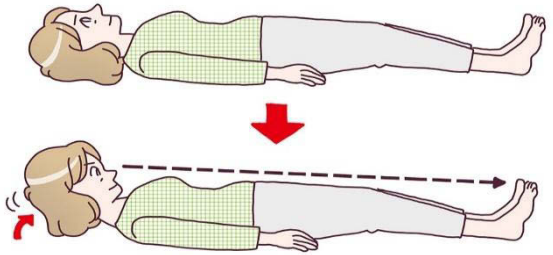
△ 1横指以上　5秒未満

× 1横指未満

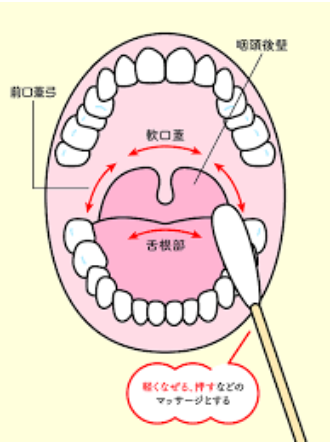
（喉頭挙上）メンデルソン手技
裏声発声訓練
（頭部挙上）シャキヤ訓練
知覚改善訓練（喉のアイスマッサージ）

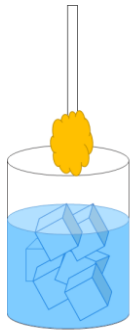
メンデルソン手技
①奥歯をかみ合わせて、
　舌全体を上の顎につける。
②その状態でゴックンと唾液を飲み込む。
③ゴックンの「ク」で息を止め、
のどぼとけが上がっている
　状態で（指で押し上げてもよい）
5秒間がまんする。





シャキヤ訓練
　両肩を付けたまま、つま先が見える





⑦発声維持・共鳴の検査

【観察】飲み込むとき、声門を閉鎖できるか
一定時間声帯を閉鎖し続けることができるか
鼻から食物が漏れないか

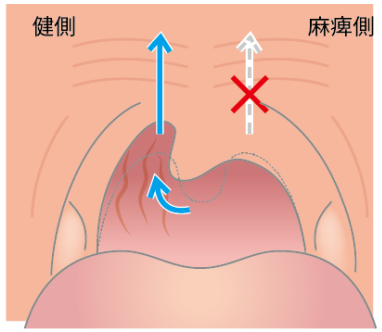
声の異常がみられない

開鼻音、閉鼻音がみられない

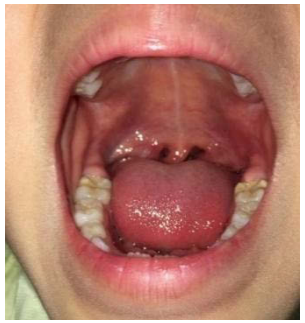
長く「アー」という

- ○ 10秒以上、音声、共鳴共に正常 ＜検査終了・訓練の必要なし＞
- △ 10秒未満、音声、共鳴共に正常 → **発声訓練**
- × 音声、共鳴いずれか異常 → **発声訓練**
  ブローイング訓練
  ティシュ吹き訓練

「口から息をできるだけたくさん吸って、できるだけ長く『アー』と言ってください」



口蓋垂は健側に偏位する







⑧構音の検査

【観察】口唇の閉鎖運動と舌の前方及び後方運動ができるか
舌の形を変えることができるか
口唇の形を変えることができるか

「パ」復唱
「タ」復唱
「カ」復唱

「パ、パ、パ、と
続けて3回、言ってください」

○ すべて3回以上 ＜検査終了・訓練の必要なし＞

△ いずれかの音が3回未満

× すべての音が3回未満

「母音」復唱

「『アイウエオ』と続けて
2回、言ってください」

○ 2回

発音訓練
パ行の発音
タテトの発音
ガ行の発音

× → **母音の発音訓練**



口腔健康管理 （口腔のケア）

・口腔衛生管理に主眼をおいた**清掃**

歯・入れ歯・口唇

口腔粘膜（歯ぐき・舌・上顎・咽頭など）

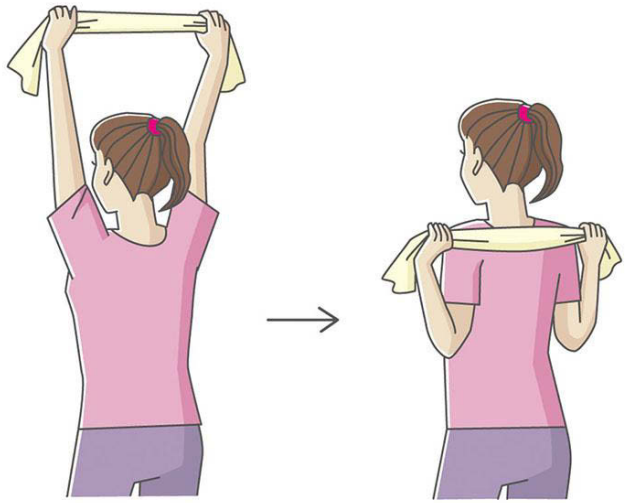
・口腔機能管理　**働き**を健全に維持すること

（呼吸、摂食・嚥下、唾液分泌、

コミュニケーション、感情表現、

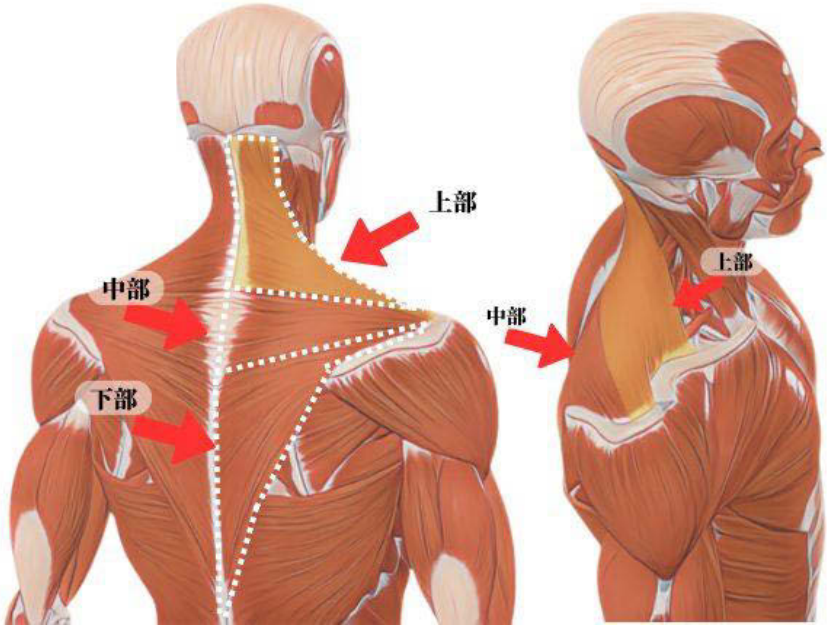
顔貌の回復、口腔リハビリテーションなど）

歯みがき前のタオルでマッサージ

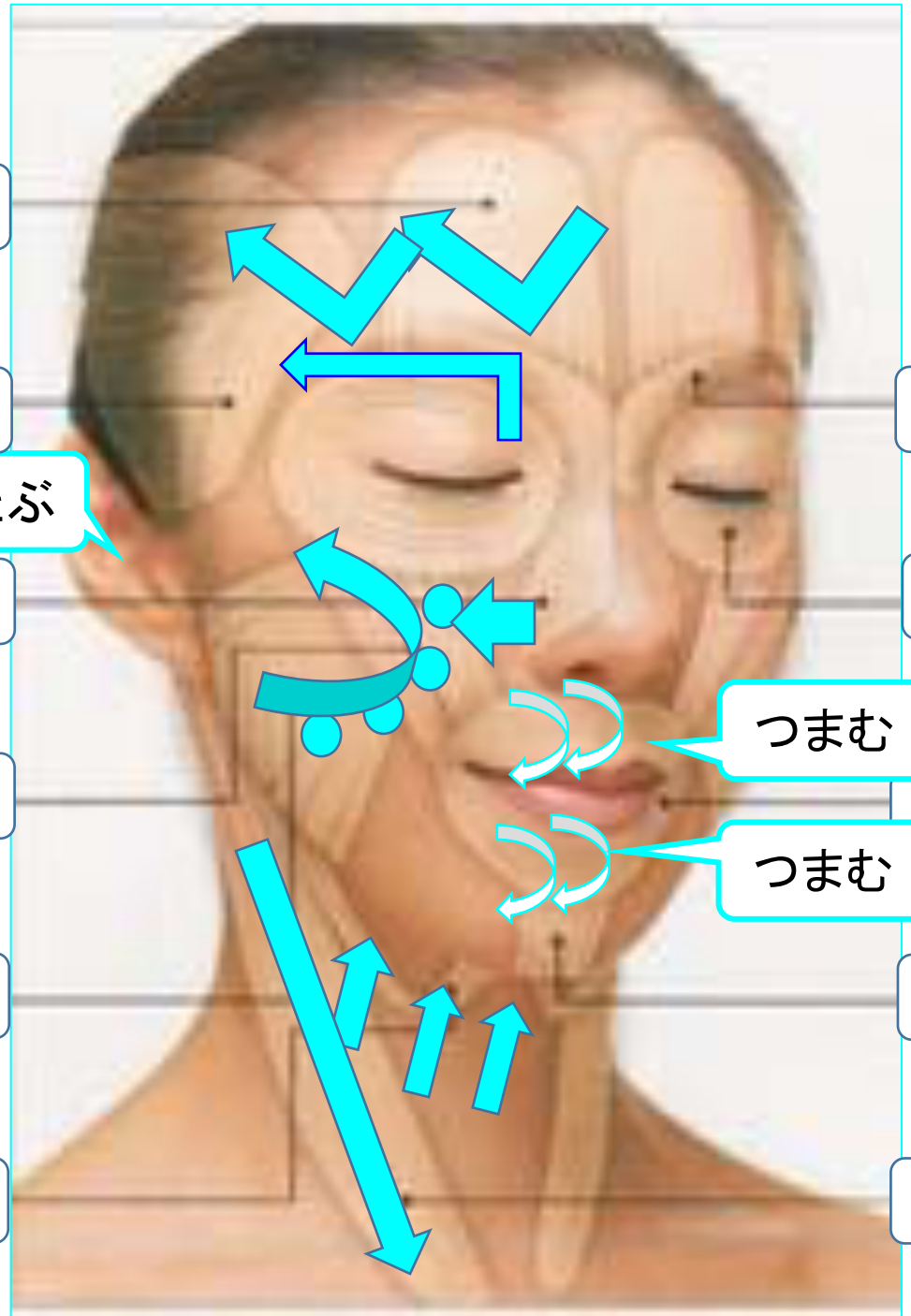














前頭筋

側頭筋

耳たぶ

鼻筋

大小頬骨筋

咬筋

顎二腹筋

愁眉筋

眼輪筋

つまむ

ウーの口

イーの口

口輪筋

つまむ

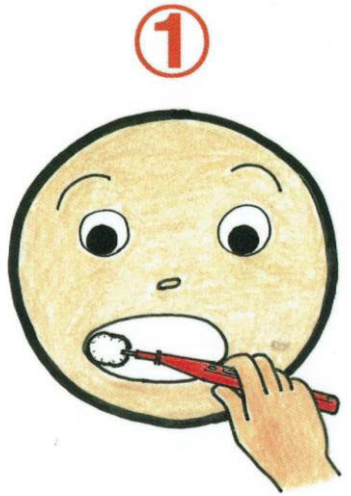
頤筋

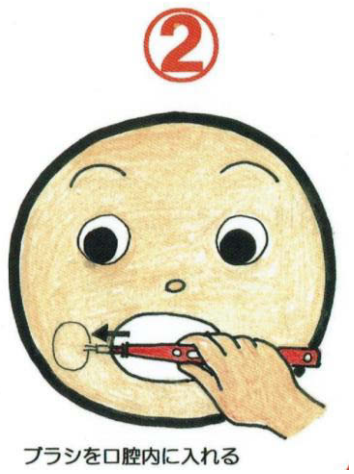
胸鎖乳突筋

くるリーナブラシ使用のポイント

1、口腔内にブラシを斜めに入れる
2、頬筋に沿わせるように、ソフトタッチでストレッチ



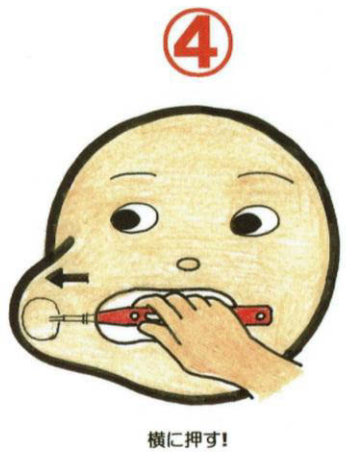






ケアのポイント

毛先をゆすり、かつ
ストレッチしながら
周りの汚れを毛先に
からめとる







黒岩恭子著
医歯葉
2013年
5,500円



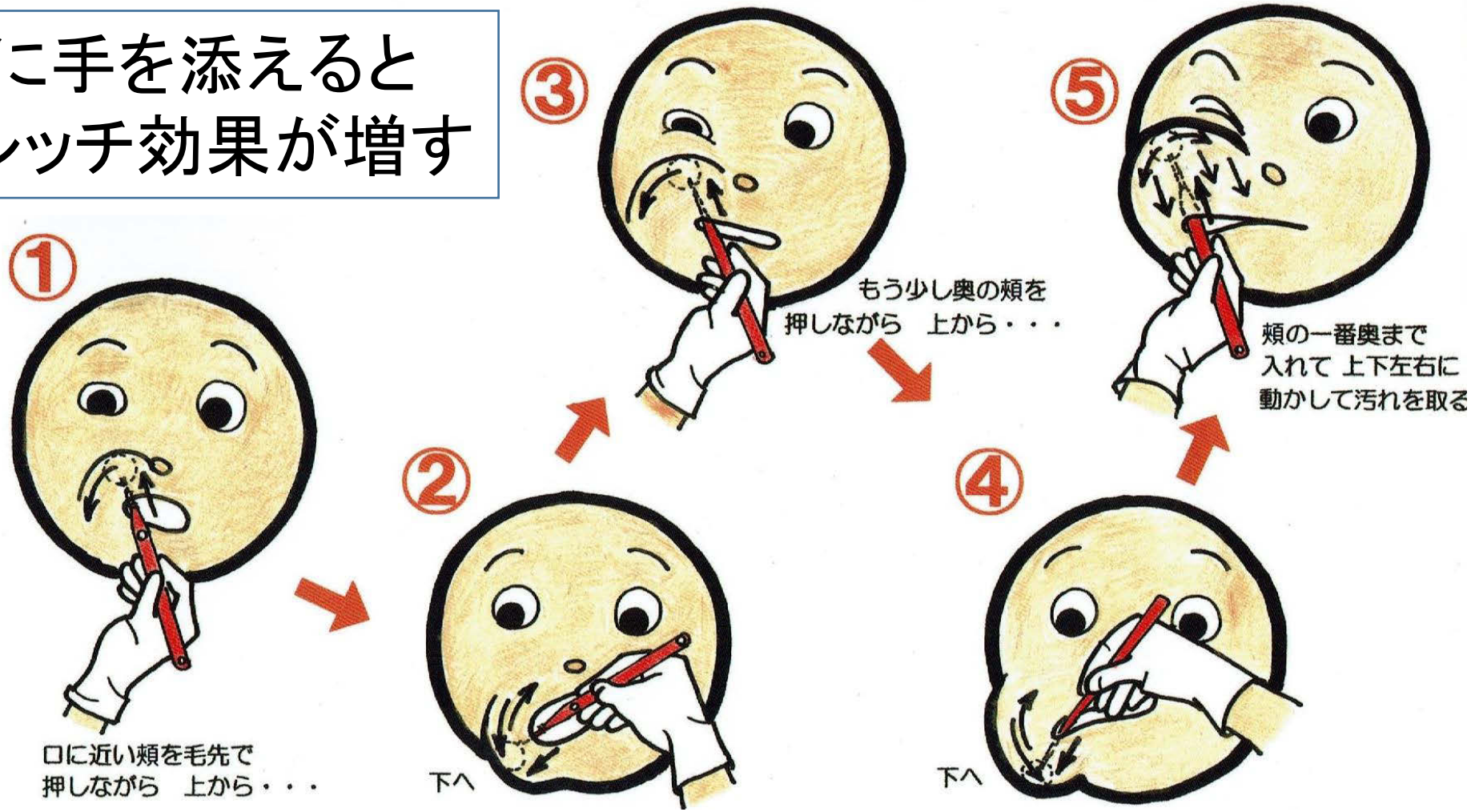
黒岩恭子著
デンタルダイヤモンド
2015年
3,000円

くるリーナブラシの操作

3、口の中の右の上唇の裏⇒頬を清掃、ストレッチ

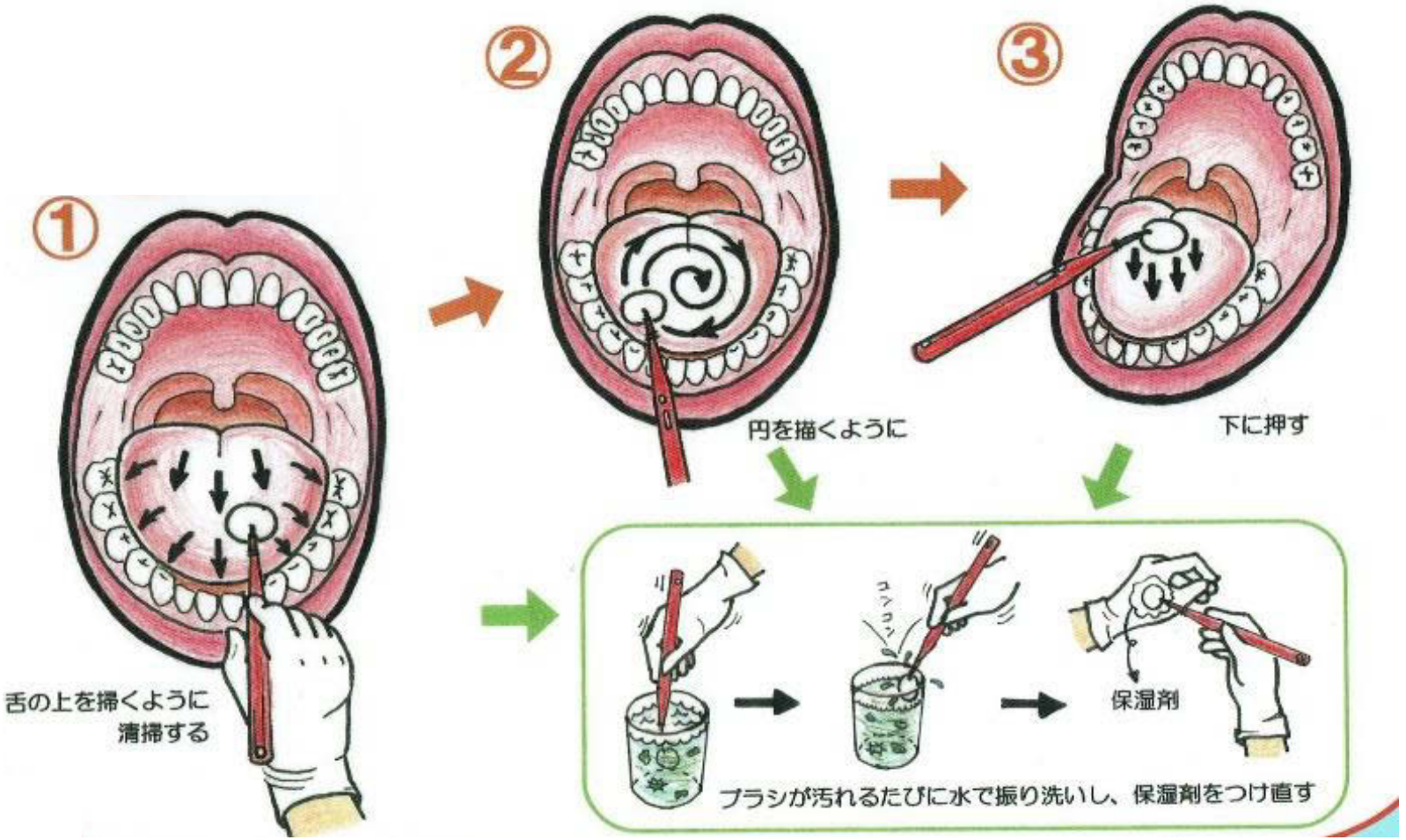
（同様に左の頬を）

頬に手を添えると
ストレッチ効果が増す



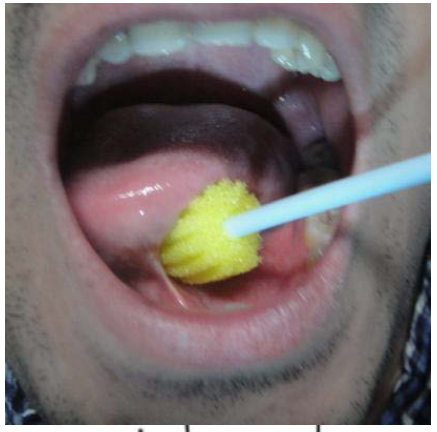
くるリーナブラシの操作

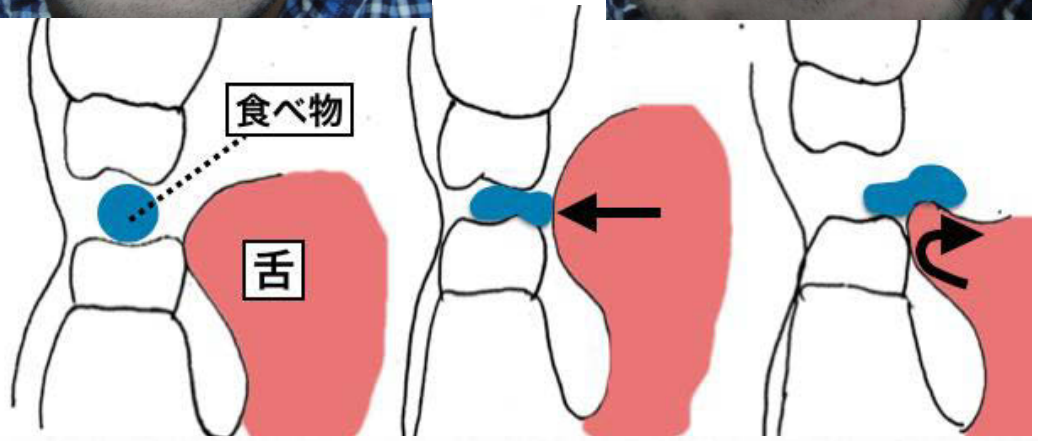
4、舌の脇、先端、裏を清掃する

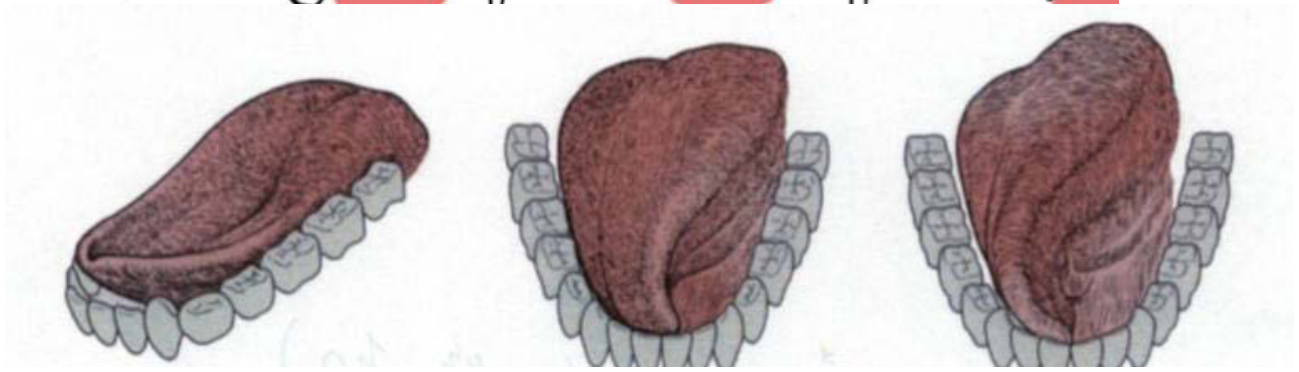


舌の下（口腔底）から持ち上げる









＊摂　食　嚥　下　運　動　検　査　お　よ　び　訓　練＊

「摂食機能療法マニュアル」/医歯薬出版株式会社2002より



検査項目 ― ・課題 ― 訓練方法　　○（検査終了・訓練の必要なし）

① 呼吸機能

・強い咳をする ― ○ / △(弱い) / × ― ハフィング（お腹から勢いよく息を出す）
- ○ → 喀出能力強化訓練、咳嗽訓練
- × → 腹式呼吸
  - ○ → ハフィング訓練、プッシング訓練、プリング訓練
  - × → リラクゼーション、可動域訓練、腹式呼吸など

② 頚部の可動性

・首を前後に倒す ― ○（前屈30°以上、後屈50°以上） / × → 首の前後ストレッチ

・首を左右に倒す ― ○（左右50°以上） / × → 首の左右ストレッチ

・首を左右にねじる ― ○（左右60°以上） / × → 首のねじりストレッチ

③ 顎運動

・口を大きく開け続ける ― ○（3㎝以上、5秒以上） / △（3㎝以上、5秒未満） / ×（3㎝未満） ― 奥歯で咬みしめる
- ○（5秒以上）→ 顔面マッサージ、咀嚼筋強化（顎を左右に動かす）、開口訓練
- × 開閉運動3回以上
  - ○ → 咀嚼力訓練（奥歯の咬みしめ）、開口訓練
  - × → 顔面マッサージ、開閉運動訓練

④ 口唇・頬運動

・頬をすぼめる ― ○（両側5秒以上） / △（5秒未満） / × → 吸引運動訓練（頬の吸い込み）

・頬を膨らます ― ○（両側5秒以上） / △（5秒未満） / × → 「イー」と口角引く
- ○（5秒以上）→ 頬を膨らます
- △（5秒未満）→ 口唇を閉じる
  - ○（5秒以上）→ 口角引き、口唇突出
  - △（5秒未満） / × → 口唇・頬のマッサージ、口唇閉鎖訓練

⑤ 舌運動

・舌を前に出す ― ○（下赤唇超える、5秒以上） / △（5秒未満） / × → 舌のマッサージ、舌前方挺出訓練

・口を開け上の前歯裏 ― ○（5秒以上） / △（5秒未満） / × → 舌のマッサージ、舌尖挙上訓練（舌打ち）、舌挙上訓練

・舌を左右の口角につける ― ○（左右とも5秒以上） / △（5秒未満） / × → 舌のマッサージ、舌尖口角接触訓練、口唇なめ訓練

・開口し、舌の奥を上げる ― ○（5秒以上） / △（5秒未満） / × → 舌のマッサージ、舌の後方移動訓練、舌後方部の負荷・挙上訓練

⑥ 喉頭挙上

・唾液を飲む「ゴックン」（空嚥下） ― ○（１横指以上、 5秒以上） / △（１横指以上、 5秒未満） / ×（１横指未満） → 裏声発生訓練、メンデルソン手技（喉頭挙上訓練）、シャキア訓練（頭部挙上訓練）

⑦ 発声持続・共鳴

・長く「アー」と言う ― ○（10秒以上、声質・共鳴とも正常） / △（10秒未満、声質・共鳴とも正常） → 発音訓練
× （声質・共鳴いずれか異常） → 発声訓練、ブローイング訓練、ティッシュ吹き訓練

⑧ 構音

・「パ」復唱 「タ」復唱 「カ」復唱 ― ○（すべて3回以上） / △（いずれか3回未満） / ×（すべて3回未満） ― 母音復唱
- ○ → 発音訓練（パ行・タ、テ、ト・ガ行
- × → 母音訓練

経過表.例

評価項目		評価基準	12/21	12/28	1/4	/	/	/
1,呼吸機能	咳	喀出できる強さ	△	△	○			
	ハッフィング	強い息を吐く	△	△	○			
	腹式呼吸	お腹が膨らむ・へこむ	△	△	○			
2.頚部の可動性	前屈・後屈	前屈30°以上・後屈50°以上	△	△	△			

メモ